

1. 背景

Background

2025年のAI開発の一大テーマは
AIブラウザ
ここ一年で、様々なAIブラウザが登場している

これにより、

AIで情報を収集する
という作業



日常の情報収集の手法が、
”検索”、”ググる”
という行為から中心から、
”Chat対話”
中心に移り変わる

情報倫理的に
適切なプロンプトに
書き換える作業



AI利用時の
セキュリティリスク
(個人情報送信など)
を考慮して
個人情報や機密情報
をプロンプトから
除去する作業

高度な処理を
させるための
プロンプトを書く作業



AIの性能を
最大限引き出し
期待している作業を
させるための
プロンプト
を入力する作業

これらの作業が当たり前になっている。
(長期的に見ても、必要性が高い)

2. 設計方針

Design Policy

本拡張の核心:
上で述べた、AIの登場によって新たに生まれた作業を
一元的に以下の設計・機能で解決する点

広範なユーザー定義範囲

設計:
プロンプトを業務内容に合わせて
細かくカスタマイズして、
最適な形で保存・活用することで、
毎回入力する手間を省ける。

機能:
・プロンプトをローカル環境に安全に保存
・保存されたプロンプトを
ワンクリックでクリップボードにコピー

解説:
ユーザーが優れたプロンプトに出会った
際、その場で保存でき、必要に応じて詳細
な設定も付与できます。保存したプロンプト
は後から簡単に呼び出してクリップボード
に貼り付けられるため、再利用性が高く、
作業のスピードと安全性を両立できま
す。

セキュリティチェック機能

設計:
ユーザーが入力するプロンプトをローカル
で解析するため、個人情報や機密情報の混
入を防ぐ設計とします。これにより、外部
サーバーに依存せず、安全なプロンプト利
用環境を実現します。

機能:
・プロンプト内容をローカルでセキュリ
ティチェック
・個人情報&機密情報を検出した際にユー
ザーへマスキングを要求

解説:
この機能により、ユーザーはプロンプト作
成時に情報漏えいのリスクを意識せず、安
全に業務を進められます。ローカル処理に
よるチェックのため、外部にデータが送信
されることはなく、セキュリティと利便性
を両立できます。

3. 先行・既存製品との位置付け

Competitor

本拡張の立ち位置・強みを明確にするために、競合拡張と比較する

拡張機能A (ChatGPT上でプロンプト生成補助)

- ✗ GPT上で”のみ”動作
- ✗ プロンプトのローカル保存機能無し
- ✗ 汎用プロンプトのみ
- ✗ 特定場面への特化型の保存不可

拡張機能B (プロンプトをサーバーに送信して、セキュリティチェック)

- ✗ セキュリティチェック時に通信発生
- ✗ 効率化どころか、安全性をAIに聞く時間がかかる
- ✗ プロセスがブラックボックス

拡張機能C (GPTのAPIを活用して、GPTにプロンプトジェネレーターを要求)

- ✗ 効率化どころか、
プロンプトをAIに生成してもらう分時間がかかる
- ✗ 多くはAPIを要求しているため
有料の場合が多い
- ✗ 手軽に使うことができない

本拡張

- ✓ ブラウザ拡張機能として
幅広い環境に対応できる
- ✓ プロンプトジェネレーターと
セキュリティチェックが統合されている
- ✓ 基本的なセキュリティチェックを
ローカルで実行する
- ✓ 特定の場面に強いカスタムプロンプトの
保存&再利用に優れている
- ✓ 独自の効率化フレームワーク提供
- ✓ 自分好みにカスタマイズしたプロンプトを、
クリップボードを通じてすぐに呼び出せる。

4. アルゴリズム

Algorithm

以下の流れで、先ほどの設計が実行される

ユーザー
インター
フェイス

プロンプト生成

コンテキストメニューやサイドパネルなどのGUI操
作を通じて直感的にプロンプトを生成します。
★その際にユーザー体験を損ないません

クローム
拡張
(内部処理)

セキュリティチェック

クローム拡張の処理(JSベース)
で個人情報・機密情報を検知
します。
検知項目:
・クレジットカード番号
・電話番号
・メールアドレス
などなど

マスキング確認

左の内容に基づいて、
マスキングするか
確認をします
⚠拒否も可能

送信

用途に応じたプロンプトがクリップボード貼
り付けられ、好きなLLMにプロンプトを入力で
きます。

ユーザー

5. 活用例

Practical Example

本拡張を生かした活用例を幾つか示す。

- ・コーディングの知識の引き出しフレームワーク提供
- ・ユーザの専門分野に応じた知識引き出しフレームワーク提供
- ・英作文の添削テンプレートとして活用
- ・回答テンプレートを含む質問
- ・クライアントの個人情報を除去したうえで、メールの返信案依頼
などが活用例として想定できる。

6. ソースコード

Source code

紙面上のみでは、伝わりにくい部分もあるので、
以下のGitHubアカウントのリポジトリの中で、本拡張のソース
コードを公開します。
<https://github.com/WNYG0317>

7. ソフトウェア

Software

- ・Microsoft visual studio code
- ・Microsoft PowerPoint2021
- ・GitHub Copilot Pro
- ・MS copilot(From Microsoft and OpenAI)
- ・ChatGPT(From OpenAI)
- ・GitHub Desktop(From)
- ・Notion 4.20.0 (Plus - Education)
- ・WebStorm 2025.2.1
- ・gamma
- ・Claude(included in GitHub copilot)
- ・Microsoft Edge
- ・Comet
- ・Canva
- ・cursor